

吉川勇一の80年（敬称略）

1931（昭和6）0歳

3月14日 生まれ。この年の9月18日に「満州事変」。

1936（昭和11）5歳

2月26日 2・26事件おこる。

11月25日 日独防共協定成立。

1937（昭和12）6歳

4月 麴町区立富士見尋常小学校入学

7月7日、日中戦争開始。父親が中国戦線で従軍。

12月13日 日本軍、南京占領、大虐殺事件。（私は「南京陥落祝賀」の皇居前ちょうちん行列に参加。）

1941（昭和16）10歳 小学校5年

6月22日 ドイツ軍、ソ連に侵入。独ソ戦争開始。

12月8日 太平洋戦争開始。感激して小躍り。

1942（昭和17）11歳 小学校6年

2月15日 日本軍、シンガポール占領。

4月5日 日本軍、バターン半島占領、「死の行進」始まる。

1943（昭和18）12歳 中学校1年

2月1日 日本軍、ガダルカナル島撤退開始。

4月 第一東京市立中学校入学（現・都立九段高校）

10月21日 出陣学徒壮行会（神宮外苑競技場）

1944（昭和19）13歳 中学校2年

6月15日 米軍、サイパン上陸。

10月25日 神風特別攻撃隊出動。

11月24日 マリアナ基地の米B-29、東京初空襲。各地への爆撃本格化。学校防衛隊で空襲警報のたびに登校。

1945（昭和20）14歳 中学校3年

4月1日 米軍、沖縄本島に上陸。

5月7日 ドイツ軍、無条件降伏。

5月25日 大空襲で自宅が全焼。父と祖母と私は、みな焼夷弾の破片で負傷。

埼玉県立川越中学校（現・埼玉県立川越高校）に転校。

8月6日 広島に原爆投下。9日に長崎に。

8月15日 敗戦の放送。

1946（昭和21）15歳 中学校4年

5月3日 極東国際軍事裁判（東京法廷）開始。

11月3日 日本国憲法公布。

中学校のクラブ「郷土班」に参加。農村調査など。

1947（昭和22）16歳 中学5年

1月31日 マッカーサー、2・1ゼネスト中止を指令。

1948（昭和23）17歳 旧制高校1年

3月 県立川越中学校を5年で卒業。

4月1日 ベルリン封鎖。

4月 旧制浦和高等学校入学。寮生活。同級生に大野明男、半藤一利ら。（学制改革により1年終了で廃校）

1949（昭和24）18歳 大学1年

6月 東京大学教養学部文科2類に入学（新制第1期）。学生サークルの「民俗学研究会」を結成。武藤一羊と知り合う。

このころ、成城の民俗学研究所に通う。

10月1日 中華人民共和国成立。

1950（昭和25）19歳 大学2年

6月25日 朝鮮戦争開戦。共産党幹部追放。『アカハタ』発禁。

7月24日 レッドパージはじまる。戦争、民主主義の危機感を抱くようになる。

8月10日 警察予備隊令公布。

10月 レッドパージ反対の試験ボイコット闘争などに1学生として参加。

民俗学研究会として、伊豆の神津島の離島調査などを行なう。

冬には、東京都下恩方村（現八王子市）の山村調査（兼共産党系の山村工作の一環、武藤一羊も参加。）

1951（昭和26）20歳 大学3年

3月20日～4月 民俗学研究所の離島調査の一部として、伊豆神津島村の調査。

4月 本郷の文学部社会学科（福武直助教授ゼミ）に。

5月 日本共産党に入党。

9月8日 サンフランシスコで講和・安保両条約調印。

10月 東大学生自治会中央委員会議長に選出。

1952（昭和27）21歳 大学4年（中退）

2月20日 ポポロ事件（警察手帳事件）。衆参両院の法務委員会、文部委員会などで、参考人、証人として発言。

4月28日 講和・安保両条約発効に抗議して全学スト。

5月1日 血のメーデー事件。その前日に本富士署への

抗議デモで逮捕され(初逮捕)、留置場。

5月14日 大学から退学処分

10月2-12日 北京で「アジア太平洋平和会議」開催。吉川もこのメンバーに選ばれていたが、乗船予定の「人民艦隊」が摘発され、密出国できなかった。その後、全学連書記局員(武藤一羊も同書記局に)、日本戦没学生記念会(わたつみ会)事務局員(組織部長)など。

1953 (昭和28) 22歳

7月27日 朝鮮休戦協定調印。日本平和委員会の事務局員となる。『平和新聞』(編集長=赤岩栄牧師)の編集。

1954 (昭和29) 23歳

3月1日 ビキニでアメリカの水爆実験。第5福竜丸被爆。原水爆禁止運動はじまる。

3月14日 全学連の「スパイ監禁事件」と関連して逮捕、起訴。(小菅拘置所に80日間) 頭、禿げはじめる。裁判は4年で、無罪判決。(共同の被告には、武藤一羊、大谷喜伝次、下村由一)

6月9日 自衛隊発足。

10月30日 中国紅十字会、李徳全女史ら来日。日本平和連絡会の事務局にいた南條祐子と知り合う。

1955 (昭和30) 24歳

7月27日 共産党第6回全国協議会(六全協)。

8月 広島で第1回原水爆禁止世界大会開催。国際部の仕事を手伝う。(武藤一羊も原水協国際部の事務局員。)

このとき以後、毎年、この大会の国際部の仕事を10年間つづける。

9月13日 砂川基地強制測量、反対派と警官隊が衝突。

1956 (昭和31) 25歳

10月23日 ハンガリー事件。

10月29日 スエズ戦争開戦。

12月18日 日本、国連に加盟。

1957 (昭和32) 26歳

6月 コロンボでの世界平和評議会総会に日本代表団(団長=小畑忠良)に事務局として参加。初の海外旅行。(代表団には、羽仁五郎、平野義太郎、安井郁、藤井日達、西園寺公一ら、事務局には武藤一羊も。)

10月4日 ソ連、人工衛星スプートニク1号打ち上げ。

1958 (昭和33) 27歳

4月27日 南條祐子と結婚。6畳一間のアパート暮らし。

1959 (昭和34) 28歳

1月1日 キューバ革命。

3月28日 安保改訂阻止国民会議結成。

9月30日 フルシチョフ、訪中(中ソ対立表面化)。

1960 (昭和35) 29歳

4月28日 沖縄県祖国復帰協議会結成。

三池闘争

5月20日 安保改訂、強行採決。連日、国会デモに参加。

10月12日 浅沼稻次郎社会党委員長、刺殺さる。

12月8日 池田内閣成立。27日、国民所得倍増計画。

また、この頃 日本平和委員会の常任理事。

1961 (昭和36) 30歳

12月27日 都下保谷町上保谷に転居。以後2007年10月まで居住。

1962 (昭和37) 31歳

7月9-14日 モスクワで「全般的軍縮と平和のための世界大会」。日本から108名参加。吉川も日本代表団事務局員として参加。

10月22日 キューバ危機 28日 ソ連、キューバからミサイル撤去。

1963 (昭和38) 32歳

8月14日 部分的核実験停止条約調印。

8月5日 広島の第9回原水禁世界大会、社会党・総評系のボイコットで分裂。

11月22日 ケネディ米大統領、ダラスで暗殺。

1964 (昭和39) 33歳

8月2日 トンキン湾事件

8月28日 第10回原水爆禁止世界大会での共産党の方針に反対して、平和委員会常任理事会で発言。平和委員会常任理事罷免、また同会から除名。

10月10日 東京オリンピック開幕。

1965 (昭和40) 34歳

2月1日 原水爆禁止国民会議(原水禁)結成。

2月7日 米軍機、北ベトナム爆撃(北爆)開始

4月5日 日本共産党中央委員会から正式に除名通知。

4月24日 ベ平連発足。

6月 ヘルシンキ世界平和大会に日本代表団(団長=高橋正雄)の一員として参加。

6月22日 日韓基本条約調印。

11月16日 ベ平連、米『ニューヨーク・タイムズ』にベトナム反戦の意見広告。

12月 ベ平連事務局長をひきうける。

以後のベ平連での活動は、ベ平連ホームページの年表に譲る。詳しくは以下のサイト参照。

<http://www.jca.apc.org/beheiren>

1966（昭和41）35歳

志賀義雄、中野重治らの政治組織「日本のこえ」に参加。のち、いいだもも、白川真澄、樋口篤三、武藤一羊、栗原幸夫らと「共産主義労働者党」結成。参加。

同党は19年に内部の意見対立が激化して分解。以後左翼政治党派には属さない。

8月 「ベトナムに平和を！日米市民会議」（東京）に参加。

8月18日 北京で紅衛兵100万人の集会。文革、中国全土に波及。

1967（昭和42）36歳

10月8日 第1次羽田事件、学生1名死亡。11月12日 第2次羽田事件。

10月21日 米、ワシントンで10万人の反戦集会。

11月11日 由比忠之進、首相官邸前で焼身自殺。

11月13日 ベ平連、横須賀寄港の米空母イントレピッド号からの4水兵の脱走発表。28日、右翼、ベ平連事務所を襲撃、破壊。

1968（昭和43）37歳

1月16日 米原子力空母エンタープライズ、佐世保寄港。エンプラ闘争に小田実と参加。

3月 東京・王子の米軍野戦病院反対闘争激化。連日のようにデモに参加。

3月16日 ソンミ事件。

4月4日 マーチン・ルーサー・キング牧師、暗殺。このころ脱走兵援助で大変。

5月4日 パリで学生デモ。「5月革命」始まる。

1969（昭和44）38歳

1月18日 東大安田講堂闘争。（神田カルチャータン）

6月29日 新宿西口地下広場の反戦フォーク集会に7,000人参加。

8月7-11日 大阪城公園で「反戦のための万国博」（ハンパク）開催。

『週刊アンボ』創刊

11月1日 自衛隊佐渡基地で、小西誠三曹、反戦ビラを撒いて逮捕される。以後、新潟の小西裁判に、毎回新潟通い。

1970（昭和45）39歳

4月 瀬戸市の名古屋学院大学講師となる（倫理学、外書講読、社会学ゼミ・ミニコミ論を担当）。72年3月に退職。

11月25日 三島由紀夫、市ヶ谷自衛隊で自殺。

この年、チソ水俣病など公害深刻化。

1971（昭和46）40歳

2月22日 三里塚で第1次強制代執行。

5月28日 三菱重工株主総会に1株主として出席、右翼、総会屋から暴行を受ける。

6月17日 沖縄返還協定調印。

11月30日 三菱重工株主総会で、また暴行を受ける。三菱製品、麒麟ビールなど個人ボイコットを始める。

この頃、予備校の代々木ゼミナール講師（英語）となる。

1998年12月まで在職。

1972（昭和47）41歳

2月19日 連合赤軍、浅間山荘事件。28日まで籠城。

2月25日 岩国に、ベ平連の反戦スナック「ほびっと」開店。たびたび岩国通い。

5月15日 沖縄施政権返還。沖縄県発足。

9月29日 日中共同声明調印。日中国交回復。

11月8日 相模補給廠からM48戦車、機動隊に守られて横浜に積み出される。それまで、たびたび相模原での運動に参加。

1973（昭和48）42歳

1月27日 ベトナム和平協定調印。

8月8日 東京で、金大中、KCIAに拉致される。

10月25日 石油ショック。

1974（昭和49）43歳

1月 ベ平連解散。

4月 はじめて東南アジア諸国を回る（香港、タイ、シンガポール、ビルマ、インドネシア、フィリピン）。

11月 旧ベ平連の有志による「吉川勇一にカツラを贈る会」から、カツラを贈呈される。

1975（昭和50）44歳

4~5月 日本文化界訪中団（団長＝安藤彦太郎）の1員として、日高六郎、前田俊彦、福富節男らと訪中。

4月30日 南ベトナム、サイゴン政権降伏。

8月 タイでの「アジア人会議」に日本代表の1員として参加。（代表団には、小田実、戸村一作、和田春樹、西川潤、李恢成、小中陽太郎らも）。

1976（昭和51）45歳

4月5日 天安門事件。

4月13日 カンボジアにポルポト政権樹立。大虐殺始まる。

1977（昭和52）46歳

4月26日 中山千夏らの革新自由連合(革自連)発足。参加。

『週刊ピーナッツ』創刊。編集・執筆に協力。

1978（昭和53）47歳

3月26日 三里塚管制塔占拠闘争。5月20日、成田空港開港。

8月12日 日中平和友好条約調印。

10月15日 前田俊彦の「三里塚瓢鰻亭」完成。この頃三里塚闘争にたびたび参加。

1979（昭和54）48歳

6月6日 元号法制化。

12月27日 ソ連軍、アフガニスタンに侵攻。

1980（昭和55）49歳

4月 日本ジャーナリスト専門学校(青地農校長)の講師(英語)となる。85年3月に辞任。

12月23日 「日本はこれでいいのか市民連合」(日市連)(代表＝色川大吉・小田実)発足。最初から世話人参加。

1982（昭和57）51歳

5月23日 反核東京行動。40万6千人が参加。

1983（昭和58）52歳

1月17日 中曽根首相訪米、18日 「日米は運命共同体」と表明。

3月8日 三里塚空港反対同盟、分裂。

1984（昭和59）53歳

3月7日 前田俊彦、近藤悠子氏らと三里塚一坪共有運動に対する中核派の暴行に抗議する共同声明。

10月2日 父死亡(84歳)

1985（昭和60）54歳

4月26日～5月16日 日本海アジア平和の船(代表＝岩井章、宇都宮徳馬、小田実)に参加、ソ連、北朝鮮、中国を訪問。(同行者には、吉岡忍、遠藤洋一、吉田嘉清、辻元清美らも)

1986（昭和61）55歳

11月5日 はじめて自動車の運転免許をとる。

1987（昭和62）56歳

東京都知事選挙への小田実出馬の是非をめぐり、日市連

の若手と対立、同会から離れる。

1988（昭和63）57歳

2月 小田実、中山千夏、福富節男らと「市民の意見30の会」を結成。

1989（昭和64/平成1）58歳

1月7日 天皇死亡。昭和→平成。

1月16日 『朝日新聞』全国版に「市民の意見30」の10ダミー意見広告掲載。

11月9日 東独、ベルリンの壁を実質的に撤去。

11月21日 日本労働組合総連合(連合)発足。総評解散。

1990（平成2）59歳

東西ドイツ統一

12月8日 湾岸戦争批判の意見広告を米『ニューヨーク・タイムズ』に掲載する運動開始。これを機会に「市民の意見30の会・東京」を結成。現在まで参加。

1991（平成3）60歳

1月17日 湾岸戦争開始。2月28日 戦争終結。

9月5日 膀胱にガンが見つかり、手術。

11月17日 武藤一羊、花崎皋平とともに「トリオの還暦を祝う会」に招かれる。

12月30日 ソ連邦解体。CIS成立。

1992（平成4）61歳

2月4日 膀胱ガンで膀胱全摘出の手術(身体障害者手帳第4級)。

1～6月 住宅改築 この頃、抗癌剤で困憊。

6月14日 衆院本会議でPKO法案可決、成立。

1993（平成5）62歳

1月18日 『産経新聞』、ベ平連がソ連KGBと接触との記事を大きく報道。

2月3～4日 共産党の『赤旗』、吉川と吉田嘉清を批判する不破哲三の大論文掲載。

6月2日 『世界日報』が「吉川勇一はKGBのエージェントだった」という記事を報道。

7月6日 胃にガン、8月11日 切除手術。体重62kg→47kg

12月27日 月刊『話の特集』に「ハゲもガンになるの記」掲載。好評。

1994（平成6）63歳

4月25日 はじめてのイレウス(腸閉塞)をおこす。その後、イレウス(腸閉塞)の頻発。

この年、イレウス(腸閉塞)で入院3回。

1995 (平成7) 戦後50年 64歳

1月17日 阪神淡路大震災。死者 6,000人以上。

1996 (平成8) 65歳

9月10日 保谷市の平和事業実行委員長となる。

1997 (平成9) 66歳

4月 インターネット上に「旧ベ平連の資料」のホームページ開設。

12月6日 米『ニューヨーク・タイムズ』に日米平和友好条約提案の意見広告掲載。

1998 (平成10) 67歳

12月 27年つとめた予備校講師を退職。

1999 (平成11) 68歳

2月22日 この個人ホームページを開設。

4月4日 新ガイドライン関連法案反対の集会、デモに、母(87歳)、妹とともに参加。

8月13日 「国旗国歌法」施行

11月5日 「日の丸・君が代」強制に反対する不服従運動を開始。呼びかけ人になる。

2000 (平成12) 69歳

1月6日 連れあいの祐子、インフルエンザ悪化で入院。以後重態の状態が4月まで続く。一時は人工呼吸器をつけて、植物人間状態になる。

4月 恵泉女学園大学非常勤講師となり、「アメリカとアジア」の講座をうけもつ。(2001年3月まで。そこで定年退職)

6月23日 祐子退院。しかし、半失明状態。夫婦で身障者手帳保持者。階段に電動式の「階段昇降機」をとりつける。以後、3度の炊事、病院への通院の介護などが続く。

2001 (平成13) 70歳

9月11日、アメリカ、ニューヨークなどで、「9・11事件」。

10月8日、米英がアフガニスタンに報復攻撃を開始。

10月29日、自衛隊の戦時海外派遣を可能とする「テロ対策特別措置法」成立。

2002 (平成14) 71歳

2月26日～3月5日 ホーチミン市の戦争証跡博物館に日本のベトナム反戦運動の資料を届けるため、ベトナム初訪問。(小田実、遠藤洋一、東一邦、吉岡忍、和田春樹ら31人のグループで)。4月～5月にも再訪。(小田実、小中陽太郎、坂元良江、山口幸夫、鎌田慧、加納実紀代ら19人のグループ)。

2003 (平成15) 72歳

1月18日 イラク攻撃反対の市民デモに参加(東京・日比谷)。以降、反戦デモ続く。

3月20日 米英軍によるイラクへの攻撃開始。小泉首相、直ちにそれを支持。

2004 (平成16) 73歳

1月15日 『朝日新聞』全国版などにイラク派兵反対、市民の戦争非協力の宣言の意見広告掲載。賛同者数5,000以上、募金額約3000万という前例のない反響。

6月10日 小田実、加藤周一、澤地久枝、鶴見俊輔ら「9条の会」発足。その後の各地の講演会は大盛況。

2005 (平成17) 74歳

6月7日 妻、祐子、急性心不全にて死亡。74歳。

2006 (平成18) 75歳

4月1日 『市民の意見30の会・東京ニュース』No. 95の号をもって、『ニュース』の編集担当を辞任。

2007 (平成19) 76歳

1月9日 防衛省発足。

7月30日 小田実逝去。75歳。8月4日葬儀。追悼デモ

10月3～5日 同市内の賃貸マンションに転居。

2008 (平成20) 77歳

3月16日 東京・青山で「吉川勇一さん 人生の新ステージ 七七歳を祝う会」。170人が参加くださる。

11～12月 立て続けにまたイレウス(腸閉塞)にみまわれ、緊急入院、5日間。

2009年(平成21) 78歳

2月8～13日 またイレウスで入院。

6月2日 脳梗塞で救急車で入院。失語症の影響。

2010年(平成22) 79歳

10月1日 タバコ代が大幅に値上げ!

2011年(平成23) 80歳

3月11日 東日本大地震。私の部屋もスライド書棚などが倒壊など、被害。

5月15日 母が有料老人ホームに入所する。私もその老人ホームへの入所を申し込む。

5月29日 「原発いらぬ西東京集会・デモ」。参加。

6月11日 各地での反原発集会、デモ。参加。

6月17日 市民の意見30の会・東京事務局会議で、会の代表資格などの辞退提案。以後「代表委員制」の一人に残る。あとのほとんどの実務の辞退が承認される。

吉川勇一の近況とこれから

やむをえないことですが、80歳になってからの**健康状況は急速に悪くなっています**。

2年前の**脳梗塞の影響の失語症**は決定的で、言葉の単語や表現が出なくなっており、また、読書力のひどい後退です。論理的な文章を表現することがかなり不可能になってきています。文章を書くことは、以前の5~6倍もの時間がかかり、しかも、しばらくあとに読み直して、何度も手を入れないと、まずはこれでいいか、という文になりません。

また、とくに左側ですが**耳の能力が減退**し、補聴器をつけてみるのですが、一對一の会話はいいのですが、複数の会議、議論はほとんど聞こえず、複数の人びととの意見交換が不自由になっています。講演もよく聞こえません。

一方、**肺気腫も進行**しており、息が切れて、**階段を上るのが辛くなっています**。先日、JRの御茶ノ水駅を出るとき、階段の途中で4~5回も休まなければなりませんでした。

それで、つい電車を使わないようになり、ほとんどの場合、車を使います。**運転の能力**は、今のところ、順調なのだろうと思っています。機械は好きなのです。先週も、旧ベ平連の仲間の会合に出るため、中央高速で山梨県の忍野村まで行ってきました。来年の3月に81歳ではあるが、また**運転許可証の延長**を取るつもりです。

毎日、午前9時55分から始まる**5分間のTV体操**にはかなりやっています。土曜・日曜日と国会の議事がある日は、このテレビの放映がないのですが、この日は、ブルーレイに録画してある画像を使って、必ず、体操は毎日やっています。

それから**タバコ**。良くないでしょうか？と言われるまでもなく、悪いのに決まっていますが、広瀬隆さんや、ジェームズ・三木さんとの仲間で、これは止めません。かつて鶴見良行さんが好きだった「ソプラニー・ブラック」の紫煙を楽しんでいます。19歳から始めたタバコをいまさら止めて、それで、2年や3年長く生きていられるとしても、その意味はないな、と思っています。

2年前から始めた**電子ピアノ**の練習は、ほとんどうまく進みません。でも、依然として意欲はあり、これからも続けるつもりです。その代わり、というわけではありませんが、最近**炊事、料理**の手はかなり良くなっています。連れ合いに食事をつくってやっているところは、あまり旨い料理をつく

れなかったのですが、最近、お茶の淹れ方、料理の味もかなり旨くなってきたなと思っています。最近、**京都の「炊いたん」料理**にかなり首を突っ込んでいます。先々週作った栗の渋皮煮は3日間もかかりましたが、うまくできました。ただ、一人だけの料理というのは、どうしても材料が残ってしまい、同じレシピを何度も食べることになったり、期限を過ぎて無駄になったりするの辛い点です。

それから、**パソコン**です。今でも毎日かなり動かし、**旧ベ平連のサイト**と、私個人のサイトの二つのインターネットのホームページを最低数日に一回は手を入れています。ぜひ、見てくださるとありがたいと思います。アドレスは以下の通りです。

ベ平連のサイト: <http://www.jca.apc.org/beheiren/>

吉川個人のサイト: <http://www.jca.apc.org/~yyoffice/>

しかし、少なくとも、前者の旧ベ平連のサイトは、私が動けなくなったあと、どなたか、継いでくださるとありがたいのだが、と思っています。

さて、**運動の話**です。「市民の意見 30 の会・東京」では、この春、代表者の引退を許可してもらいました。今、3人の共同代表委員の一人にはなっていますが、事務局の**実務の担当などからはほとんど手を引かせて**くださっています。でも、出来ることはなるべくやるつもりで、機関誌の『市民の意見』の発送作業などには、必ず参加していますし、事務局会議や編集委員会にも顔を出しています。**デモもできるだけ参加**します。先日の明治公園の大デモにもゆきました。ただ、人が多すぎて、市民の意見 30 の会・東京の旗のある友人たちのグループには会えませんでした。住所の西東京市でも、脱原発の集会やデモがよくあり、すでに2回のデモに行きました。次回は12月です。ただ、全部をデモを通すことは辛く、**一部だけ歩いたり、出発を見送るだけ**で失礼することもあります……。

これからですが、あと、数年は、今のところで暮らしたいと思っていますが、あまりうまく動けなくなりましたら、**老人ホームに移ります**。その際、私のところにある**必要なベ平連関連の重要な文書、写真、図書などは、立教大学の共生社会研究センター**に收容していただくことになっています。すでに先日、このセンターからお二人にご相談に来られました。すでに埼玉大学の共生社会研究センターに移された私のところの資料は、来年春に、立教大学のセンターのほうに全部異動されることになっています。（以上）